

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	13-008	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and risk of lymphoid and myeloid neoplasms: results of the Netherlands cohort study. アルコール消費とリンパ系腫瘍、骨髄腫瘍のリスク : The Netherlands cohort study の結果から		
執筆者		
Heinen MM, Verhage BA, Schouten LJ, Goldbohm RA, Schouten HC, van den Brandt PA.		
掲載誌		
Int J Cancer. 2013 Oct 1;133(7):1701-12. doi: 10.1002/ijc.28175. Epub 2013 Apr 24.		
キーワード		PMID
リンパ系腫瘍、骨髄腫瘍、アルコール飲酒、コホート研究		23553592
要 旨		
<p>目的： 疫学研究の結果からアルコール飲酒者ではリンパ系腫瘍のリスク減少が示されている一方で、骨髄腫瘍の結果は一貫していない。これらの研究のほとんどは遡及的なデータを使用した検討である。私たちは前向きデータを用いて、アルコール消費量がリンパ系腫瘍、骨髄腫瘍の両方のリスクを減少させるのかを、主要なサブタイプを含め検討した。さらにエタノールや他のアルコール飲料（ビール、ワイン、お酒）によってリスクが減少するかについても検討した。</p> <p>方法： The Netherlands Cohort Study は 120,852 人のベースライン調査票(1986年)を記入した対象者で構成された。17.3 年の追跡後にリンパ系腫瘍 1,375 例と骨髄腫瘍 245 例が曝露情報とともに、解析対象として入手できた。</p> <p>結果： 禁酒者と比較すると形質細胞腫瘍については、毎日のエタノール消費量で 0.1 - < グラムでは 1.66(95%信頼区間 (CI) : 1.21-2.29)、5- < 15 グラムで 1.63 (95%CI : 1.17-2.27)、 15 - < 30 グラムで 1.11(95%CI : 0.75 -1.64)、\geq 30 グラムで 0.85 (95%CI : 0.51-1.42) のハザード比(HR) が観察された。同様のパターンは慢性リンパ球性白血病/小リンパ球性リンパ腫で観察された。他のサブタイプおよび骨髄性腫瘍ではそのような関連は観察されなかった。飲料の種類別に分析したところ明確な関連は観察されなかった。</p> <p>結論： 結論として、我々の研究ではアルコール消費とリンパ系腫瘍との間に逆相関をみられなかった。これは骨髄性腫瘍でも同様であった。アルコール消費とリンパ系腫瘍との間に関連があるならば、我々の研究はリスクの増加ではなく減少を示唆している。</p>		